

日本経済入門Ⅱ

科目ナンバリング ECP-102

選択必修 2単位

小林 成弘

1. 授業の概要(ねらい)

本講座では「日本の近代化と経済発展」をテーマに、幕末の開国から明治～大正～昭和～平成そして新元号を迎える今日までの160余年の間に、日本の産業・経済がどのように西欧の近代技術を吸収し発展を遂げてきたのか、また諸外国との経済依存関係が深まりを強めてきている中でどのような国内外の経済問題や景気変動を経験してきたのか学ぶことによって、現代の日本経済が抱える様々な経済問題を歴史的視点と地理的(国際的)視点の両面から総合的に理解できる素養を身につけていくことを目指します。

春期は、大航海時代の株式会社誕生から講義を始めます。次いで、イギリス産業革命で発展した大規模工場制機械工業や近代的経済システムがその後日本にも伝わり、幕末の開国から第二次世界大戦に至る80年足らずの間に急速に西欧社会にキャッチアップしていった過程を振り返りながら、明治日本の産業革命の歴史的意義や、その後の急速な経済産業発展の秘密を探っていきます。

秋期は、第二次世界大戦で廃墟と化した日本がその後どのようにして復活し高度経済成長を達成することができたのか、さらに1970年代後半に突如、中～低成長時代に移行した日本経済がどのような経済問題を抱えるようになったのかを学びます。これら一連の講義を通じて、今日の日本が抱える様々な経済問題は実は過去の経済的事象、とりわけドル・ショック(ニクソン・ショック)やオイル・ショックなどの国際経済環境の激変が直接的・間接的な引き金となって、延々、今まで影を引きづっていることを学び取って欲しいと思います。

2. 授業の到達目標

グローバル化した国際経済社会の中で日本は今どのような状況に置かれているのか、また、日本の近代経済成長の歴史の中で今日の日本はどのように位置づけられるのかを、受講者それぞれが自分なりにストーリーを描いて人に説明できるようにしてもらいたいと思います。

3. 成績評価の方法および基準

期末に行うペーパーテストの結果を成績評価の基礎点とし、これに普段の授業への取り組み姿勢(出席状況、義務的課題の実施状況、任意レポート提出など)をボーナス点として加算して総合評価を行います。ただし、以下の事項に該当する場合は大幅減点となります。

- ①授業中の私語など他の学生に影響を与えるあらゆる「迷惑行為」
- ②授業中およびテスト時におけるあらゆる「不正行為」

4. 教科書・参考文献

教科書

【テキスト】特に指定しません。その他の参考文献は、講義に都度紹介します。

参考文献

浅子和美・篠原総一郎編 『日本経済入門』(有斐閣)

南亮進 『日本の経済発展』(東洋経済)

中岡哲郎 『日本近代技術の形成—“伝統”と“近代”のダイナミクス』(朝日選書)

石井寛治 『日本の産業革命—日清・日露戦争から考える』(講談社学術文庫)

5. 準備学修の内容

講義は基本的にパワーポイントを使って進めます。パワーポイントの資料はその都度縮刷版をプリント配布しますが、その内容は多岐にわたり分量も多くなりますので授業に出席せずに後で資料だけに頼って勉強しようとしても重要なポイントを絞れず講義の全体像を掴むことは到底不可能です。必ず毎回授業に出席して講義をしっかり聴き、メモをとり、何が重要なのか、どのように話が展開されるのかを自分の頭で整理しながら理解していくように努めて下さい。なお、講義内容について各自の理解を深め知識の定着を図るため、授業の際に練習問題プリントを配布することがあります。特に提出は求めませんが、聴講生はそれら課題を自宅で自主的に取り組んでみることを強く勧めます。

6. その他履修上の注意事項

単に授業を聞くという受け身の姿勢ではなく、講義を通して自分の関心や疑問を掘り起こし、原典や関連文献または統計データに直接あたって調べたり確認してみるといった積極的な姿勢で取り組むことを期待します。

7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス／第二次大戦と戦後への経済遺産
- 【第2回】 朝鮮戦争と戦後復興
- 【第3回】 戦後日本の景気循環と産業構造変化
- 【第4回】 プレトンウッズ体制
- 【第5回】 GATT体制と自由貿易
- 【第6回】 高度経済成長と集団就職
- 【第7回】 戦後アメリカ経済の変調とニクソン・ショック
- 【第8回】 石油ショックと新自由主義の台頭
- 【第9回】 「大きな政府」から「小さな政府」の時代へ
- 【第10回】 激しさを増す貿易摩擦
- 【第11回】 経済構造改革と東京一極集中
- 【第12回】 ブラザ合意と円高不況
- 【第13回】 平成バブル
- 【第14回】 バブルの崩壊と失われた20年
- 【第15回】 まとめ／テスト